

ユニバーサルデザイン研究部会公開セミナー「デンマークの建築 ～環境・QOL・経済」

- 開催日 2025年4月15日(火) 19:00~21:00
- テーマ 「デンマークの建築 ～環境・QOL・経済」
- 講演者 似内志朗(ファシリティデザインラボ代表/ユニバーサルデザイン研究部会アドバイザー)
- 主催 公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 ユニバーサルデザイン研究部会
- 開催方法 オンライン:Zoom 配信
- 公開形式 一般公開・無料
- 定員 オンライン:100名(先着順)

●セミナー趣旨

◇講演者の似内志朗は、昨秋9月、デンマーク建築ツアーに参加し、首都コペンハーゲン、オーフス、オーデンセ、リーベなどで環境建築・木造建築を見て回りだったが、人口600万人弱の小国(日本の1/20)だが、国民のQOLと脱炭層を中心とするサステナビリティ施策の進展ぶりに驚かされた。アルネ・ヤコブセン、ヘニング・ラーセンなど数々の建築家・デザイナーを生んだ「デザインの国」だけあり、ランドスケープ、都市、建築・インテリア・家具や照明に至るまでデザインの水準が高く、環境に配慮された様々なアイデアも印象的だった。

◇デンマークは今から23年前、パリ協定(2015)以前の2011年に化石燃料脱却を目指す「エネルギー戦略2050」を公表した。2050年に再生可能エネルギー100%を達成するため、2020年に電力の半分を風力発電で賄い、2030年には石炭使用を止め、2050年に電力・熱・産業運輸を再生可能エネルギーで賄う計画とした。資源の乏しい小国デンマークは1970年代のオイルショックまでは欧州でも化石燃料の依存度が高い国だったが、世界の人口増に伴い予想されるエネルギーコスト高騰を想定し、自給自足が可能な風力発電を中心とした再生可能エネルギーへのシフトを、エネルギー安全保障の観点から必要と考えたのである。その後、地球温暖化が世界的課題となり、脱炭素のため再生可能エネルギーの重要性が認識されるようになったが、デンマークは既に脱炭素へのスタートを切っていた。

◇多少の紆余曲折があったものの、デンマークは着実にコマを進め、再生可能エネルギーが発電量に占める割合は8割以上と世界でも際立って高く、カーボンニュートラルは目前となっている。デンマークで特徴的なのは、国際的な約束事になった脱炭素だけではなく、ウェルビーイング向上や新分野での事業開発などを一体として進めたことである。インクルーシブな思想がいきわたり、国民の幸福度世界第二位(フィンランドに次ぐ)というQOLの高さ、ひとり当たりGDPは日本の約2倍、経済面ではデンマーク発の商業用風力発電メーカーVestasやSiemens Wind Powerなどによる国際競争力を高めてきた。これら、環境(地球)・社会(人)・経済の三位一体の戦略には、大いに学ぶことが多い。

◇インクルーシブな思想は、特定のエリート層ではなく、国民すべてが平等な生活を送ることを唱えた、牧師で哲学者のニコライ・フレデリク・セヴェリン・グルントヴィ(1783~1872)の影響が強いと言われる。この理念が、格差の少ない北欧型社会システム、コンセンサス型社会システム、教育における知恵や問題

解決能力の重視など、現在に至るデンマーク国民の価値観に大きく影響を与えたと言う。これらはユニバーサルデザインの思想とも大いに通じる。本セミナーでは、デンマークのサステナビリティ（環境負荷最小化とウェルビーイング最大化）の観点から、建築・都市を中心にデンマークの現在を紹介したい。

●プログラム

- ・開催趣旨：児玉達朗（JFMA ユニバーサルデザイン研究部会長）3分程度
- ・講演：「デンマークの建築 ～環境・QOL・経済」 似内志朗 90分程度
- ・質疑：児玉達朗（進行）→似内志朗 約20~25分

●参加方法

予約は特に必要ありません。下記からお入りください（ZOOM）。

開始10分前（18:50）からアクセスできます。

<https://us06web.zoom.us/j/82196725246?pwd=pk93XRLlZUql9lWeEYaCvin9ROnBf3.1>

●問合せ先

似内志朗（メールアドレス：shiro.nitanai@gmail.com）

●注意事項

- ・WEBの視聴にはPCやタブレットなどの端末とインターネット環境が必要です。
- ・インターネット経由のライブ中継ですので、回線状態などにより画像や音声がかかる場合があります。
- ・SNS等による情報提供は問題ありませんが、動画撮影はご遠慮ください。

以上